



新緑を満喫しながら山頂を目指す参加者

50回目の南昌山山開き 今シーズンの登山の安全を祈願

南昌山（標高848㍎）の山開きが6月4日に行われ、家族連れや登山愛好家など約150人が参加しました。

出発前に矢巾温泉前で神事を行って今シーズンの安全を祈願。吉田秀一町観光協会長らのテープカット終了後、上級者向けの前倉コースは約3時間、一般向けコースは約2時間かけて山頂へ。参加者は昼食を食べながら、山頂からの景色と初夏の南昌山の自然を満喫していました。

北日本高等専修学校の学生20人が、矢巾温泉前で車上荒らしに遭わないように呼びかけるとともに、南昌山一般コースのごみ拾いを行いました。

まちの話題 あれこれ

身の回りに起きた出来事など、
楽しい情報をお寄せください。
役場企画財政課
(☎ 611-2724)



50回目の山開きを記念して山頂で記念撮影をしました

やはぱーく前に潤いと彩りを ロックヒルズ(株)がフラワータワー寄贈



高橋町長から感謝状を受け取る佐藤代表取締役

ロックヒルズ株式会社（佐藤一代表取締役）は、やはぱーくにフラワータワー2基を寄贈し、6月12日にお披露目されました。

今回、寄贈されたフラワータワーは、高さ4mになり、ニューギニアインパチエンスが528株飾り付けられています。赤や白、オレンジなど5色がやはぱーく前を色鮮やかに飾ります。

製造業の同社は、今年1月に紫波町から矢巾町広宮沢に本社を移転。佐藤代表取締役は「このタワーを皆さんでかわいがってほしいし、花であふれる通りになってほしい」と話しました。

こずかた保育園の園児20人は、合唱や踊りを披露し、タワーの花が満開になるのを心待ちにしていました。



高さ4mにもなるタワーを見上げる園児たち



基幹相談支援センターの看板披露

(福)新生会では、5月25日に身体・知的・精神の障がいを持つ方を総合的に支援する相談窓口「紫波地域障がい者基幹相談支援センター」の看板を披露。このセンターは、紫波町と矢巾町が共同で実施する委託事業です。



ごみゼロの日に清掃活動

町内の11事業所が5月30日、住みやすい地域を目指してB.H.Yahabaタウン周辺道路のごみ拾いを実施。この活動は、5(ご)3(み)0(ゼロ)の語呂に合わせて毎年5月30日に環境美化活動を実施する取り組みです。



夜光反射材で高齢者の事故防止

地域交通安全活動推進委員協議会(菅原雪雄会長)と紫波警察署が6月7日、青松学園の参加者にチラシや靴に貼る反射材を配布。夜間の高齢者の交通事故防止と自動車を運転するときの早め点灯を呼びかけました。



チャグチャグ馬コの上から手を振る園児(ふどうこども園)

南部盛岡チャグチャグ馬コ同好会矢巾支部(藤井照夫支部長)と町観光協会(吉田秀一会長)の共催で6月5日、町内でチャグチャグ馬コ前祝祭を行い、保育園児や高齢者が馬コと触れ合いました。
ふどうこども園には、色鮮やかな装束を身に着けた母馬と生後4カ月の子馬が訪れ、園児たちは、馬コににんじんを食べさせたり、乗馬体験をして夏の風物詩を体感しました。
この前祝祭は、南部盛岡チャグチャグ馬コパレードのPRのために行われていきます。6月10日のパレードには、町内から19頭の装束を着た馬が参加しました。

チャグチャグと鈴の音を響かせて
馬コが町内施設を巡回しました



プランターにベゴニアを植栽する商工会会員の皆さん

矢巾町商工会(水本孝会長)は6月9日「商工会の日」記念事業として花いっぱい運動を実施しました。同会女性部や青年部を中心に約30人が参加し、88個のプランターに赤とピンクのベゴニアを植栽しました。町内の中学校、やはばく、矢巾斎苑に設置し、町内を美しい花で飾りました。女性部の吉田美知子部長は「植栽した花を見ることで、心豊かでやさしい気持ちになってもらえるとうれしいです」と願っていました。
また同日、同会青年部は地域への「絆」感謝事業の一環として、町中心部の清掃活動を行いました。

町商工会が美しいまちづくり
花いっぱい運動と清掃活動